

公益財団法人滋賀県文化財保護協会の概要について

1 名称

公益財団法人滋賀県文化財保護協会

2 設立年月日

昭和45年4月8日

3 設立の趣旨・目的

滋賀県下の歴史上、芸術上または学術上価値の高い文化的所産を調査・研究・保護し、かつ活用を図り、もって滋賀県ひいては我が国の文化的向上に資することを目的とする。

4 業務概要

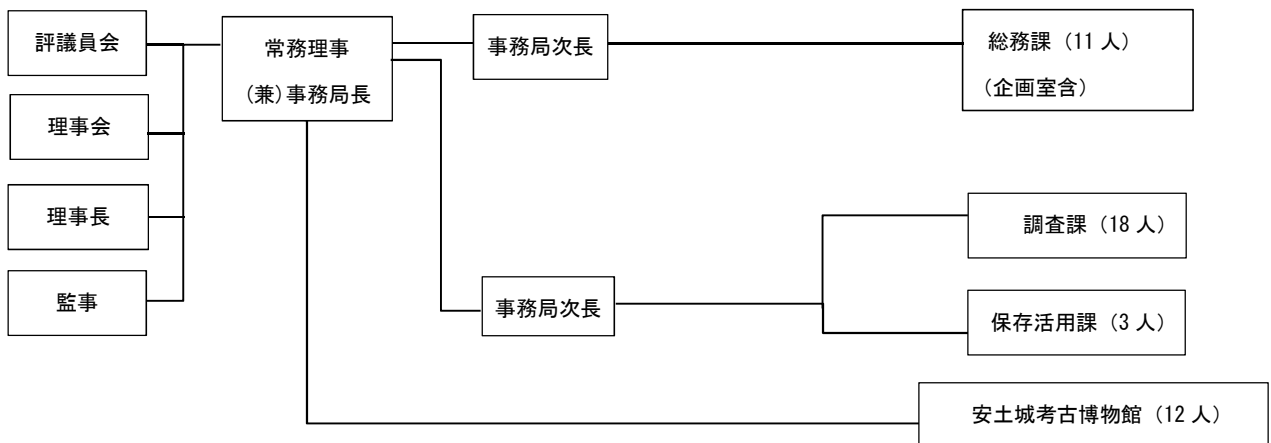
- (1) 文化財に関する講演会・講座・展示会の開催、文化財に関する出版物等の刊行
- (2) 埋蔵文化財の発掘調査および整理調査受託
- (3) 県立安土城考古博物館、県立琵琶湖文化館および県埋蔵文化財センターの管理運営
- (4) 県内の文化財所有者を対象とした、文化財の保護・保存・活用のための事業に対する資金の貸付

5 出資の状況(令和3年度末)

(単位：千円、%)

区分		出資額	構成比	区分		出資額	構成比
基本財産等	滋賀県	3,000	2.3	その他	滋賀県	30,000	23.3
	(公財)滋賀県文化財保護協会	36,360	28.3		(公財)滋賀県文化財保護協会	11,000	8.6
	大津市他18市町	640	0.5		大津市他18市町	30,000	23.3
					寄付金等	17,494	13.7
					小計	88,494	68.9
小計	40,000	31.1	合計	128,494	100		

6 組織図



7 役員等

役職	氏名（他団体での役職）	常勤
評議員	石丸 正運（名都美術館館長）	
〃	安土 憲彦（栗東市教育長）	
〃	村田 昌弥（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課長）	
〃	黒崎 直（大阪府立弥生文化博物館名誉館長）	
〃	前阪 良憲（大津市仏教会会長）	
〃	藤川 栄一	
理事長	北川 正雄	○
常務理事	金山 昭夫	○
理事	吉田 秀則	○
〃	林 博通（滋賀県立大学名誉教授）	
〃	増渕 徹（京都橘大学教授）	
〃	三宅 貴江（「湖国と文化」編集長）	
監事	松尾 宏文（公認会計士・税理士）	
〃	小寺 善通（成安造形大学学長）	

8 所在地

滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2

令和4年度 出資法人経営評価表

(別紙3・公益法人等用)

法人名	公益財団法人滋賀県文化財保護協会
-----	------------------

1 人員、県の人的関与の状況

(単位：人)

①会員の状況 (社団法人のみ)		R2年度	R3年度	R2→R3増減				
②役員の状況		R2年度	R3年度	R2→R3増減	R4年度			
評議員総数		6	6		6			
うち県職員 (特別職を含む。)		1	1		1			
うち県退職職員 (OB)		1	1		1			
理事総数		6	6		6			
うち県職員 (特別職を含む。)								
うち県退職職員 (OB)		2	2		2			
うち常勤役員数		3	3		3			
うち県職員 (特別職を含む。)								
うち県退職職員 (OB)		2	2		2			
監事総数		2	2		2			
うち県職員 (特別職を含む。)								
うち県退職職員 (OB)								
うち常勤監事数								
うち県職員 (特別職を含む。)								
うち県退職職員 (OB)								
報酬額・年齢								
常勤役員の平均年齢		64.3	63.7	△ 0.6	64.7			
常勤役員の平均報酬 (年額) (千円)		4,197	4,565	368	4,789			
役員の報酬総額 (年額) (千円)		12,890	13,695	805	14,366			
③職員の状況		R2年度	R3年度	R2→R3増減	R4年度			
職員総数		46	88	42	76			
常勤職員		40	38	△ 2	42			
プロパー職員		32	30	△ 2	32			
うち県退職職員 (OB)		3	3		3			
県等からの派遣職員		3	3		3			
うち県派遣職員		3	3		3			
臨時・嘱託職員		5	5		7			
うち県退職職員 (OB)								
非常勤職員		6	50	44	34			
うち県派遣職員								
うち県退職職員 (OB)								
プロパー職員の平均年齢		47.5	47.6	0.1	47.3			
プロパー職員の平均給与 (年額) (千円)		6,232	6,699	467	6,344			
職員の給与総額 (年額) (千円)		236,796	301,851	65,055	327,454			
プロパー職員の年代別職員数		10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
(令和4年度当初実数)			6	3	5	15	3	32

2 県の財政的関与の状況

(単位：千円)

項		目	R2年度	R3年度	R2→R3増減	R4年度	備考 (R4内訳)
県からの 年間 収入額	補助金	事業費補助金	9,893	11,114	1,221	11,877	文化財保存事業費補助金 (11,877)
		運営費補助金					
	負担金		1,203	1,221	18	1,380	
	委託料		605,830	601,041	△ 4,789	569,941	発掘調査等委託料(403,742)、安土城考古博物館指定管理(121,982)、施設管理運営委託料等(44,217)
	その他						
合計			616,926	613,376	△ 3,550	583,198	
年度末 残高	県からの借入金						
	県からの損失補償・債務保証						
短期貸付金の金額 (期間中の県からの借入れで、同一年度に貸付けと返済の双方が行われるもの)							

3 評価

区分	評価項目	評価内容	該当項目に○			出資法人の所見	県の所見
			R1	R2	R3		
効果性	中期経営計画、年度目標の策定	中期経営計画、年度目標とも策定している。 中期経営計画のみ策定している。 年度目標のみ策定している。 策定していない。	○	○	○	令和3年度は、コロナ禍において事業の中止を余儀なくされたものもあったが、県民や社会のニーズに応えるため、中期計画や年度目標にもとづき、参加規模の縮小、インターネットを利用したオンライン形式での実施など、柔軟な対応により概ね事業の目標を達成することができた。	令和3年度は、普及啓発事業を中心に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けたものもあったが、中期計画に基づいて、埋蔵文化財の発掘調査や県立文化施設の管理運営等を行っており、より効果的な事業となるよう努めている。
	事業活動の社会情勢への適合性	全ての事業が社会情勢に適合し、その意義は大きい。 社会情勢に照らして意義が薄れてきた事業がいくつかある。 社会情勢に照らして意義の薄れてきた事業が多くある。	○	○	○		
	活動の成果の達成度	活動について成果目標を定め、目標以上に達成している。 活動について成果目標を定め、目標どおり達成している。 活動について成果目標を定め、概ね目標どおりに達成している。 活動について成果目標を定め、達成しているものもあるが、十分ではない。 活動について成果目標を定めていない。	○	○	○		
	住民、関係者等のニーズの把握状況	多様な調査を実施し、積極的にニーズの把握に努めている。 ニーズを把握するための手段を講じている。 具体的な取組はしていない。	○	○	○		
効率性	経常費用に占める管理費の状況	管理費比率が2期連続で減少した。 管理費比率が前期に比べ減少した。 管理費比率が前期に比べ増加した。 管理費比率が2期連続で増加した。	○	○	○	令和3年度は、経常費用が経常収益を上回ったが、今後も発掘調査事業量の確保と、自主事業の拡大に努めるとともに、経費節減にも引き続き努めていきたい。	発掘調査事業量の減少により経常収益に影響が出たが、収入のほとんどを公益目的の事業の財源に充てており、当該法人の設立目的を果たせるよう、経営資源が有効に活用されている。
	経常収益・費用の比率	経常収益が2期連続で経常費用を上回った。 経常収益が、当期は経常費用を上回った。 経常収益が、当期は経常費用を下回った。 経常収益が、2期連続して経常費用を下回った。	○	○	○		
健全性	債務超過の状況	当期末において債務超過でない。 2期連続で改善した。 前期に比べ改善した。 前期に比べ悪化した。 2期連続で悪化した。	○	○	○	コロナ禍という社会情勢の大きな変化の中ではあったが、発掘調査事業量の確保および経費の節減により、健全な経営状況を維持できるよう努めている。今後も自主事業の充実により、さらに健全な財務経営に努める。	発掘調査事業量の減少により正味財産期末残高が前期に比べて減少したが、借入金もなく、短期的な支払い能力もあり、健全な財務状況の維持に努めている。
	正味財産期末残高の状況	2期連続で増加した。 前期に比べ増加した。 前期に比べ減少した。 2期連続で減少した。	○	○	○		
	累積欠損金の状況	当期末において累積欠損金はない。 累積欠損金は、2期連続で減少した。 累積欠損金は、前期に比べ減少した。 累積欠損金は、前期に比べ増加した。 累積欠損金は、2期連続で増加した。	○	○	○		
	短期的支払い能力の状況	流動比率は、2期連続で100%以上であった。 流動比率は、当期は100%以上であった。 流動比率は、当期は100%未満であった。 流動比率は、2期連続で100%未満であった。	○	○	○		
	借入金依存率の状況	当期末において借入金は無い。 2期連続で低下した。 前期に比べ低下した。 前期に比べ上昇した。 2期連続で上昇した。	○	○	○		

区分	評価項目	評価内容	該当項目に○			出資法人の所見	県の所見	
			R1	R2	R3			
自立性	知事・副知事の代表者への就任状況	知事・副知事が法人の代表者へ就任していない	○	○	○	-	-	
		知事・副知事が法人の代表者へ就任している						
	県派遣職員の状況	当期末において県派遣職員はない				当協会にとって、県派遣職員や県退職職員は、県での勤務経験を活かして、協会の業務の執行および次世代の職員育成にも役立っている。今後も県との良好な関係を保ちながら事業をすすめていく。	それぞれの職員の経験や知識を活かして発掘調査等の調整や安土城考古博物館の学芸部門の総括等の業務を行うことにより、当該法人の技術力の向上、人材育成および運営の自立性の拡大に寄与している。	
		常勤職員に占める県派遣職員の割合が前期に比べ低下した。	○	○	○			
	県退職職員の就任状況	当期末において県退職職員はない						
		常勤職員に占める県退職職員の割合が前期に比べ低下した。	○	○	○			
県財政支出の状況	当期末において県の財政支出はない。				令和3年度は、県からの財政支出の割合は若干上昇したが、全体として発掘調査の事業量が確保できた。今後は社会情勢に伴い、事業量が上下することが予想されるため、自主事業の拡大を図り、同時に経費節減に努めていくことで、法人の安定的な運営に努める。			当該法人の主要事業は発掘調査事業であり、令和3年度の県の財政支出は減少したが、市町からの発掘調査委託の減少等の影響で、県の財政支出の割合が上昇した。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、近年、普及啓発事業等による自主財源の確保や、発掘調査事業の県以外からの受託の拡大に努めており、安定的・継続的に経営できるよう努力している。
	経常収益に占める県の財政支出の割合が前期に比べ低下した。		○					
短期貸付金の金額(期間中の県からの借入れで、同一年度に貸付けと返済の双方が行われるもの)の状況	当期中において県の短期貸付けはない	○	○	○				
	県の短期貸付けの額が2期連続で減少した。							
損失補償の状況	当期末において県の損失補償・債務保証はない	○	○	○				
	県の損失補償・債務保証の額が2期連続で減少した。							
透明性	情報公開規程の整備状況	規程を整備している。	○	○	○	当協会の情報公開規程により、事業計画や財務諸表等をホームページや県民情報室において開示している。	情報公開規程や文書管理規程の整備、財務諸表等の公表がなされており、財務諸表についても会計専門家の指導を受けていることから透明性は確保されている。	
		規程を設けていない。						
	情報公開の実施状況	規程を設けていない(県の資本金等の割合が1/2未満)。						
		ホームページ等により不特定の者に対し情報公開を行っている。	○	○	○			
	文書管理規程の整備状況	不特定の者に対し情報公開を行っていない。						
		規程を整備している。			○			
	文書管理の実施状況	規程を設けていない。						
規程を設けていない(県の資本金等の割合が1/2未満)。								
会計専門家の関与状況	情報公開の資料に係る文書の作成、整理、保存等を行っている。			○				
	情報公開の資料に係る文書の作成、整理、保存等を行っていない。							
業務監査の実施状況	作成した財務諸表について、会計監査人監査を受けている、または、財務諸表の作成過程で、会計の専門家の指導・助言を受けている。	○	○	○				
	会計の専門家による監査・指導・助言等は受けていない。							
		業務監査を実施している。	○	○	○			
		業務監査を実施していない。						

	出資法人の総合的評価・対応	県による総合的評価・対応		
事業に関する事項	法人の設置目的を達成するために継続的に事業を実施している中で、発掘調査の事業量を安定的に確保することを目標としていく。今後も社会情勢の変化に伴い事業量が上下することが懸念されるが、県以外からの事業の受託や自主事業の拡大等、引き続き事業の安定化に努める。	当該法人の設置目的を果たすため、各種事業を継続的に実施し、社会情勢に応じて事業内容を見直すなど、公益財団法人としての役割を適切に果たしている。発掘調査等の受託事業量が年度によって増減が生じることから、事業の安定化に向けて市町や民間事業等の受託範囲拡大等の取組に対し助言していく。		
財務に関する事項	社会情勢の大きな変化にもかかわらず、発掘調査事業量を確保できたことで、健全な経営状況を保っている。今後、自主事業の拡大をさらに図り、発掘調査の事業量に左右されることなく安定的な経営基盤の確保を図っていく。	現状の経営状況は健全であるが、上記のように発掘調査等の受託事業量が年度によって増減が生じるため、中長期的な発掘調査の事業量の見通しの把握に努め、情報共有や市町との調整を行うなど財政基盤の安定化に資するよう支援していく。		
行政経営方針実施計画に関する事項 ※実施計画は次頁参照	令和3年度は市町が実施する発掘調査等の支援も含めて発掘調査事業量を確保でき、発掘調査年間受託契約額は達成できた。今後も、県だけでなく市町の支援も含めて発掘調査事業量を維持していきたい。 文化財活用事業に対する貸付事業については0件であったが、今後も市町へさらに広報活動を行い、貸付制度の周知をはかり、地域への社会貢献に努めたい。	県からの発掘調査業務の受託に加え、市町が実施する発掘調査等の受託により、発掘調査事業量を維持し財政基盤の安定に努めている。 文化財活用事業に対する貸付事業について、各種団体や市町との情報交換や広報活動により、貸付制度をとおして更なる地域への社会貢献が求められる。		
	実施計画に定める「具体的な取組内容」の進捗状況		実施計画に定める「具体的な取組内容」の進捗状況	
	1. 文化財保護の推進のため、公共事業に関わる埋蔵文化財の発掘調査を効率的に進めている。近年は、市町が実施する発掘調査等の支援も積極的におこなっている。 2. 県内で実施される文化財活用事業に対する資金貸付事業を実施し、文化財を通じた地域への社会貢献を進めている。		1. 開発事業計画を早期に把握し、中長期的な発掘調査事業量の見通しについて、県と当該法人で情報共有を図ることにより、市町支援を含む発掘調査を計画的に実施し、目標を達成した。 2. 新規貸付事業について積極的な広報を行ったが、令和3年度は貸付実績が無かった。文化財保護法の改正により、地域における文化財活用が求められる中、積極的に市町へ広報を行うとともに需要を正確に把握することで、地域への社会貢献を進められるよう期待する。	
	実施計画に定める目標	左の実績	実施計画に定める目標	左の実績
1. 発掘調査年間受託契約額 H30～R4の5年平均 434百万円	1. H30:434、R1:506、R2:486、R3:445 平均467百万円			
2. 文化財活用事業に対する貸付件数 2021～2022年度各2件	2. 0件			
総合所見	社会情勢の変化に伴い、当協会の主たる事業である発掘調査事業の事業量は上下するが、市町事業、民間事業を受託することで社会的要請に応じた事業の幅の拡大を図っている。今後、企画部門を中心に情報発信しながら普及啓発活動等の自主事業を実施し、法人の自立性を図っていくことにより健全で安定的な法人運営に努めたい。	当該法人の設立目的を達成するための各種事業を継続的・効果的に実施しており、求められる役割を果たしている。 一方、年度により発掘調査の事業量の増減が生じる中で、県としても中長期的な発掘調査の事業量の見通しの把握に努めるとともに、今後も法人の役割を果たすため、文化財活用事業など普及啓発活動についても助言していく。		

【参考資料】

※行政経営方針実施計画(2019年度～2022年度)

23 公益財団法人滋賀県文化財保護協会【担当部課(局・室)名:教育委員会事務局文化財保護課】

基本的な考え方 (現状認識・今後の方向性)	当法人は、文化財保護の推進のため、特に県が調査主体である国や県の実施する公共事業に関連する発掘調査業務を中心にその役割を果たしてきたところであるが、近年、市町が実施する発掘調査等の支援のほか、市町や観光協会等と連携し、社会的要請に応じた事業の幅の拡大を図っている。今後、新たな事業を実施することで文化財を通じた地域への社会貢献を進めるなど法人の自立性向上を図り、引き続き財政基盤の安定に努める。					
具体的な取組内容	(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標
1 公共事業に関わる埋蔵文化財の発掘調査を効率的に進め、引き続き財政基盤の安定に努める。【出資法人】 開発事業計画を早期に把握し、中長期的な発掘調査事業量の見通しについて、法人と情報共有し、市町支援を含む発掘調査の円滑な実施に努める。【県】		計画的・効率的な発掘調査事業の実施				<ul style="list-style-type: none"> 発掘調査年間受託契約額 平成30年度(2018年度)～2022年度の平均 434百万円(税抜) 文化財活用事業に対する貸付件数 平成30年度(2018年度) 0件 → 2019～2020年度 各1件 2021～2022年度 各2件
2 県内で実施される文化財活用事業に対する資金貸付事業を新たに開始し、文化財を通じた地域への社会貢献を進める。【出資法人】	文化財活用 事業貸付金 創設	貸付事業活用に向けた取組(制度の周知)				

公益財団法人滋賀県文化財保護協会の財務状況について

(1) 貸借対照表に関する項目

単位：千円

①資産の状況		R1年度	R2年度	R3年度	R2→R3増減
	現金・預金	138,487	98,139	110,201	12,062
	その他	77,161	60,865	70,821	9,956
流動資産 計		215,648	159,004	181,022	22,018
	基本財産	40,000	40,000	40,000	
	うち預金	40,000	40,000	40,000	
	その他の固定資産	474,387	483,097	488,971	5,874
	土地・建物				
	退職給付引当預金	218,560	231,240	243,620	12,380
	減価償却引当預金	68,488	67,658	66,712	△ 946
	特定目的預金	142,635	150,767	155,057	4,290
	その他の固定資産	44,704	33,432	23,582	△ 9,850
固定資産 計		514,387	523,097	528,971	5,874
資産合計額		730,035	682,101	709,993	27,892
②負債の状況		R1年度	R2年度	R3年度	R2→R3増減
	短期借入金				
	その他の流動負債	146,589	70,014	87,485	17,471
流動負債 計		146,589	70,014	87,485	17,471
	長期借入金				
	退職給付引当金	231,960	245,545	258,659	13,114
	その他の固定負債	60,000	60,000	60,000	
固定負債 計		291,960	305,545	318,659	13,114
負債合計額		438,549	375,559	406,144	30,585
③正味財産の状況		R1年度	R2年度	R3年度	R2→R3増減
	指定正味財産			40	40
	うち基本財産への充当額				
	うち特定資産への充当額				
	一般正味財産	291,486	306,542	303,809	△ 2,733
	うち基本財産への充当額	40,000	40,000	40,000	
	うち特定資産への充当額	211,123	218,425	221,769	3,344
正味財産額 計		291,486	306,542	303,849	△ 2,693

(2) 正味財産増減計算書

単位：千円

①一般正味財産増減の状況		R1年度	R2年度	R3年度	R2→R3増減	R4年度
	基本財産運用益	9	9	3	△ 6	15
	特定資産運用益					
	受取会費					
	事業収益	696,984	670,910	652,269	△ 18,641	738,800
	自主事業収益(受託以外の事業収益)	22,588	15,345	19,071	3,726	19,230
	受託事業収益	674,396	655,565	633,198	△ 22,367	719,570
	受取補助金等	12,606	9,893	11,937	2,044	11,877
	受取負担金	1,236	1,203	1,221	18	1,380
	受取寄付金等					100
	雑収益	5,048	2,694	2,639	△ 55	5,373
	引当金取崩額					
	経常収益計	715,883	684,709	668,069	△ 16,640	757,545
	事業費	702,085	655,674	656,518	844	752,422
	管理費	16,430	14,115	14,643	528	16,313
	経常費用計	718,515	669,789	671,161	1,372	768,735
	当期経常増減額	△ 2,632	14,920	△ 3,092	△ 18,012	△ 11,190
	経常外収益計		136	359	223	
	経常外費用計					
	当期経常外増減額		136	359	223	
	当期一般正味財産増減額	△ 2,632	15,056	△ 2,733	△ 17,789	△ 11,190
	一般正味財産期首残高	294,118	291,486	306,542	15,056	303,809
	一般正味財産期末残高	291,486	306,542	303,809	△ 2,733	292,619
②指定正味財産増減の状況		R1年度	R2年度	R3年度	R2→R3増減	R4年度
	当期指定正味財産増減額			40	40	
	指定正味財産期首残高					
	指定正味財産期末残高			40	40	
③正味財産期末残高		291,486	306,542	303,849	△ 2,693	292,619
再	人件費	321,738	309,649	377,609	67,960	403,164
	うち退職給付費用	16,215	14,075	13,114	△ 961	12,304
	うち役員人件費	22,340	14,982	16,208	1,226	17,055
	うち非常勤職員人件費	14,113	15,479	87,095	71,616	84,049
	減価償却費	982	1,261	1,456	195	1,603
掲	法人税等					